

公共音楽ホールの動線からみた施設環境の改善に関する研究 ～静岡県西部地区のホールを対象として～

音楽ホール 観客 演奏者

1715047 中村有里

動線

指導教員 脇坂圭一

1 はじめに

1-1 背景および研究の目的

浜松は音楽の街として有名である。しかし、施設の使い勝手はどうだろうか。観客の動線については最善を尽くされているが、演奏者が使う裏動線は使いやすいとは言いがたい。演奏者の視点から見た課題にも着目すべきだと考える。そこで本研究は、公共音楽ホールの演奏者の動線からみた課題を整理し、施設環境の改善に向けた提言を行うことを目的とする。

1-2 既往研究から見た本研究の位置付け

表 1: 既往研究と本研究の関係

	観客	演奏者
意匠計画	浦部「公演時外のオープンスペースについて」 ¹⁾	
視線	佐藤「舞台の見通しについて」 ²⁾	
動線	笠井「観客の動線について」 ³⁾	
環境	福地「室の形状と仕上げ材料について」 ⁴⁾	菅「音響要因について」 ⁵⁾

2 研究方法

静岡県西部地区を中心に、座席数 800 席以上のホールを持つ 5 施設を選定した。

表 2: 調査対象 5 施設の概要

施設名	竣工年	劇場・ホール座席数		
		大ホール	中ホール	小ホール
アクトシティ浜松 (AKU)	1994	2336	1030	
浜松市浜北文化センター (HAM)	1981	1208	306	
富士市文化会館 ロゼシアター (ROZ)	1993	1632	700	326
掛川市生涯学習センター (KAK)	1983	ホール 1069		
ミキホール (MIK)	1994	大ホール 800	小ホール 250	

調査方法は

①施設の図面収集及び動線の確認

平面図を見て、折れ曲がり回数や扉の枚数等の計測

②演奏者へのアンケート調査の実施

特に対象施設の中から、西部地区で大会等がよくおこなわれる主要施設である、アクトシティ浜松、浜北文化センターを対象にアンケート調査を行った。アンケート調査は、対象者として各施設を利用したことのある演奏者とした。期間は 6 月 24 日～7 月 21 日。項目は、滞在時間、部屋、階段、エレベーターや動線のわかりやすさ等という内容とした。

3 結果

3-1 アンケート結果

アンケートの回収人数は、AKU 大ホールは 64 人、AKU 中ホールは 32 人、HAM 大ホールは 24 人、HAM 小ホールは 9 人であった。

AKU 大ホールでは舞台裏が 1 階に対し、地下 2 階の「楽屋 2-6」、地下 3 階の「リハーサル室」が使われることが多かった。HAM 大ホールでは舞台裏が 1 階に対し、1 階にある「リハーサル室」が使われることが多かった。これにより舞台とよく使われている楽屋群は、AKU 異なる階層にあるが、HAM は同じ階層にあるということがわかる。(表 4)

利用した時間については、8～10 時間滞在する方が AKU は 2.5 割いるのに対し、HAM は 1 割程度と少ない。また、どちらも山が二つあることから、ヒトの外出時間のほとんどを占める比較的長時間利用と、ヒトの外出時間の半分である比較的短時間利用とに二分されることがわかる。利用したことのある階段については、AKU は「どこかわからないが舞台近くの階段」が 4 割と最も多かったのに対し、HAM はわからないと答えた方はいなかった。また、HAM には「使っていない」と答えた方がいたことから、使わずに演奏会を行うこともできることがわかる。動線はわかりやすかったかという質問に対し、AKU は 7 割程度が「わかりにくい」と回答したのに対し、HAM は半数が「わかりやすい」と回答している。(図 1)

3-2 各施設の動線について

表 3: 各施設の動線について

	最小折れ曲がり回数	最大折れ曲がり回数	最小扉数	最大扉数	外部に通じる階	最長経路	最短経路
AKU (大)	0	3	2	2	B1.1F	53m	8m
AKU (中)	1	3	1	4	B1.1F		
HAM	0	2	2	2	1F	20m (115m)	0m
ROZ	1	3	2	2	1F		
KAK	1	1	2	2	1F		
MIK	0	1	2	3	1F.2F		

各動線についてまとめた表より折れ曲がり回数は AKU と ROZ が 3 回と最も多かった。施設の規模が大きく、収容人数が多いホールを持つ施設ほど、動線がわかりづらくなると思われる。最長距離については AKU のほうが 2 倍長くなっている。しかし、HAM は楽屋等ではなく会議室を使うことも多いが、その時は AKU のさらに 2 倍と長い。

4 考察

アンケート結果により AKU は、「どこかわからないが舞台近くの階段」が多く、HAM は「わからない」がなかったことから、HAM に比べて AKU は利用した階段の位置の認知が難しいことがわかる。また、動線はわかりやすさについて、AKU は「わかりにくい」が多かったことから、階段の位置の認知と動線の明瞭さには関係があると思われる。

演奏者の快適な環境に向け行うべきことは、現在ある施設については階の認知を可能にする必要があると思われる。今後の建てていく施設については広い面積が必要になるが、舞台と楽屋を同一階に配置できる計画にすべきだと思う。

参考文献

- 1) 浦部智義, 高円寺外の滞在者の分布と意識から見た劇場・ホールを持つ公共文化施設内のオープンスペースに関する研究, 日本建築学会計画系論文集 pp.57-66, 2010 年 1 月
- 2) 佐藤大樹ら, 可視率を用いた観客席設計のための舞台への見通し評価手法に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, pp.1695-1702, 2017 年 7 月
- 3) 笠井純一ら, 北陽演舞場という「場」と浪花踊観客の動線, 人間社会生活研究, pp.205-222, 2018 年 3 月
- 4) 福地智子, 客席・観客の吸音特性と建築材料, 日本音響学会誌, pp.33-39, 2002 年
- 5) 菅真一郎ら, オーケストラ演奏家の評価に基づくホールの主要な音響設計条件, 日本建築学会計画系論文集, pp.1-9, 1995 年 5 月

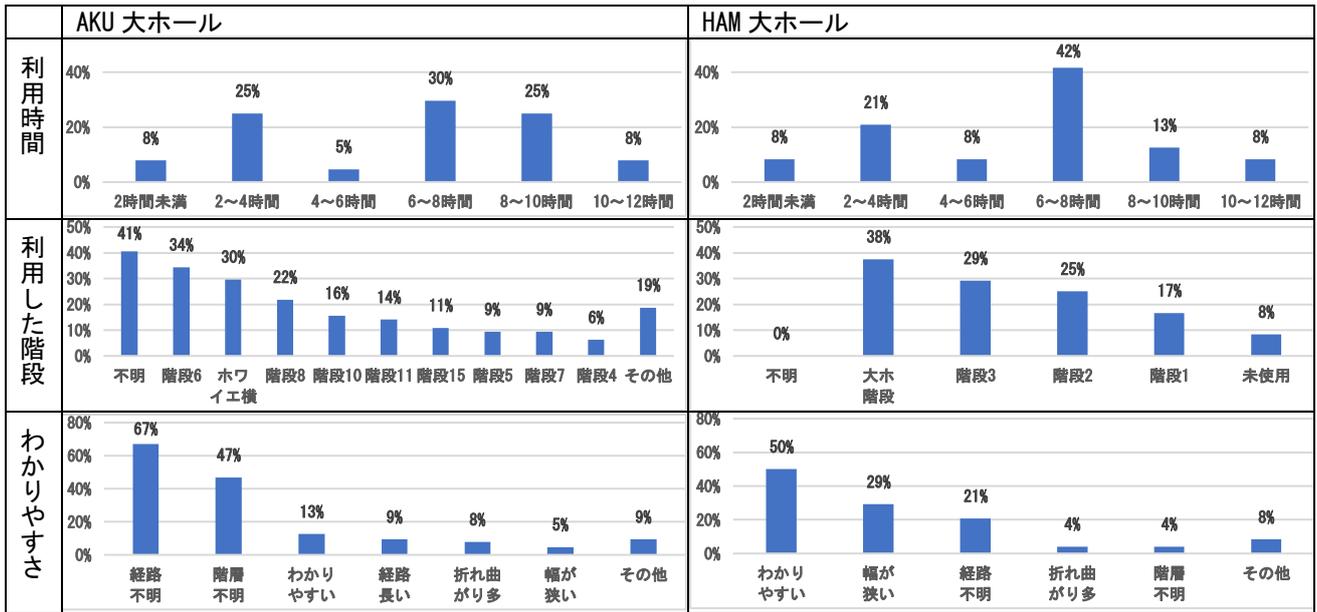


図 1: アンケート結果

表 4: 階層と利用室, 利用人数の関係について

	AKU 大ホール					HAM					
	舞台	楽屋・リハ室等			出入口	舞台	楽屋・リハ室等			出入口	
1階	舞台裏 52人, 81%	楽屋 9.10 8人, 13%	客席 43人, 67%	出入口 58人, 91%	3階	大会議室 11人, 46%	3~5 会議室 2人, 8%	文化活動室 3人, 13%	出入口		
地下1階	楽屋ラウンジ 19人, 30%	楽屋 7.8 13人, 20%	楽屋 2~6 46人, 72%	楽屋 1 14人, 22%	クローク 20人, 31%	多目的室 7人, 19%	1.2 会議室 3人, 13%	出入口			
地下3階		リハ室 51人, 80%				舞台裏 15人, 63%	楽屋 1~5 14人, 58%	リハ室 17人, 71%	客席 16人, 67%	1~3 練習室 13人, 54%	100%

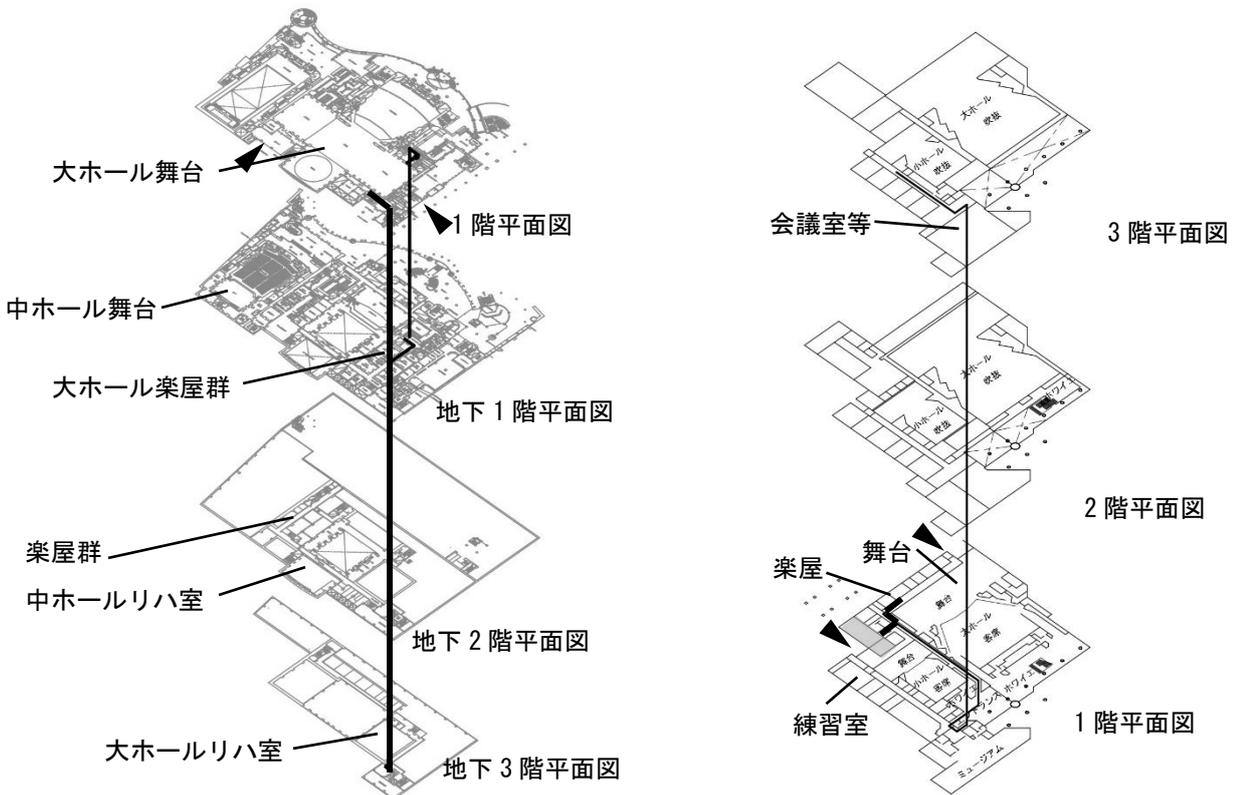


図 3: HAM 平面図兼動線図